

往復書簡

今回からは、宮下直明氏（群馬県、(有)あずま産直ねっと）と当機構理事の高木勇樹との往復書簡が始まります。

拝啓 高木 勇樹様

厳寒の候、いかがお過ごしでしょうか。年が明けても寒さが衰えることはなく、人にも野菜にも厳しい毎日ですが、自然と共に仕事をする農業に就き今年の四月で十年目を迎えるようとしています。

今回このような節目の年に高木様と手紙での交流が出来る縁を頂きとても光栄に感じております。この機会に私の感じている農業法人で行う農業について考えてみたいと思います。

そもそも私の家は非農家ですので、技術や経験を積むために農業専門学校で学び、その後の進路として農業法人の存在を知ることとなりました。農業をやってみたいと考える人にとって、農業法人は研修や独立の為の手段と同時に、働いて賃金を得る事の出来る重要な場所で、それは新たな農業人口を増やす上での裾野を広げる大きな受け皿になるのではないかと思います。

私が農業を始めてから約十年が経ちますがここ数年、農業に対する意識の変化が起こっているのを感じています。その要因の一つとしてリーマンショック後の派遣切りといった不況が深く影響していることもあると思いますが、以前よりも仕事としての農業に目を向ける人が多くなったという事だと思っています。

弊社は新農業人フェアに何度か出展していますが、ブースを訪れる方々の年齢層が低くなり、今までほとんど見ることもなかったリクルートスーツ姿の学生を見ることも多くなりました。実際弊社でも十代、二十代の人たちが多く働いており頼もしい存在であります。

農業は人が生きていくうえで欠かすことの出来ない食の生産を担う大事な仕事ですが、仕事内容や労働環境は自然に左右されることが多い為、なかなか安定したものではなく、働き手の定着率も決して高いとは言えません。それ故に今後、

農業法人が担わなければならないモノは今以上に大きく、そして重要なものになっていくだろうと思われれます。一つは人材育成であり、また高齢化に伴う耕作放棄地の農地集約であり、食料自給率が40%を切る日本における国産農産物の生産強化や賃金の安定、TPPの影響など挙げたらきりがありません。しかしだからと言って将来が悲観されるものではなく、これだけ遣り甲斐があり日本の食を支えるという誇りある仕事に全力で取り組み挑戦していきたいと考えています。

敬具

平成二十五年二月吉日

宮下 直明(みやした なおあき)

有限会社あずま産直ねっと(群馬県) 施設部長
二〇〇三年三月 関東学院大学卒業
二〇〇四年三月 日本農業実践学園専修科卒業
二〇〇四年四月 (有)あずま産直ねっと入社
現在、ハウス栽培2.5haにて、トマトミニトマトイチゴチンゲン菜等の栽培責任者(施設部長)



上段：圃場へ向けて出発
下段：朝礼にて一日の作業工程を従業員に説明

押復 宮下 直明様

暦の上では立春を過ぎ、春一番が吹いたとの便りも聞かれるこの頃ですが、本格的な春到来までは厳しい寒さが続くのでしょうか。特に今冬の寒さは野菜の生育に影響を及ぼしているようで、ご苦労が多いことと推察します。

今や農業法人が貴方のような非農家の方の就職先として選ばれ、十年選手となっておられるのと、また、このことが当たり前前の風景となっていることとです。

平成四年に、法人化の推進を打ち出した「新政策」(新しい農業・農村政策の方向)に関わり、平成十年全国農業法人協会が日本農業法人協会として公益法人(現在公益社団法人)となる時に立ち会ったひとりとして感無量です。

貴方が現場で感じておられるように、農業法人は日本農業の担い手としてだけでなく、農村地域の雇用の場としても、大きな役割を果たすようになっております。また、貴方の指摘される点も含め、今後ますますその役割、機能に対する国民の期待は高まるものと確信しています。

農業法人がその期待にこたえるには、農業を産業としてとらえ、持続する農業経営体であることが求められると思います。そのためには農業を農地、人、技術、マーケティング力、マネジメント力などを経営資源とし、創意工夫、努力の発揮を通じ収益をあげる総合知識集約産業ととらえることが必要とされています。これを担うのが持続的農業経営体です。

貴方が指摘している点は、そのどれをとっても大

変重要です。ただこれにバラバラに対応しても恐らく所期の効果の発揮は期待出来ないでしょう。何故なら農業は前述したように総合知識集約産業だからです。パッケージで総合的に取り組み、支援することが大事です。

貴方の現場感覚で、このような考えはどう受け止められるのか、また、総合支援策を講ずるとしたら、どのような内容のものなら現場にフィットするのか。次回貴方自身のお考えを聞かせていただき、更に議論を深められればと思います。宜しく願います。

平成二十五年二月吉日

敬具

高木 勇樹 (たかぎ ゆうき)

一九四三年 群馬県生まれ
一九六六年 東京大学法学部卒業農林省入省。食品流通局砂糖

類課長、大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管理部長、畜産局長、大臣官房長、食糧庁長官など

農林水産事務次官、二〇〇一年退官

二〇〇二年 農林中金総合研究所理事長

二〇〇三年 農林漁業金融公庫総裁、二〇〇八年同公庫退任

二〇〇七年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長

現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構理事長などの立場から、わが国農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力。

